

先週の礼拝メッセージ(2022年12月4日) 井上マイケル兄

「私たちへの主の最後の命令」 マルコによる福音書 16:15

皆さんの中に、家族や親友の最後の言葉を聞く場面に出くわした方がいらっしゃるでしょうか。大切な愛する人の最後の言葉は、私たちの心に強く残り、私たちの人生に大きな影響を与えることがあります。

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

これはイエス様が天に帰られる前の、地上での最後の言葉です。これはすべてのクリスチャン、教会への命令です。もちろん方策は違うでしょう。海外へ宣教師を送ることに重荷を持っている教会もあれば、地域に根ざした宣教に重点を置く教会もあります。マルコのイエス様の命令は、マタイ 28:19~20にも記されています。そこでは単に福音を伝えるだけでなく、人々をイエス様の弟子として教育するようにと語られています。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」

これはまさに、一人の働きではなく、教会全体として取り組むべきものです。

救いはスタートラインです。そこからクリスチャンの霊的な成長が始まります。それを踏まえた上で、スタートラインに立つ前の自分を思い起こしてください。私たちは、誰かによって福音が伝えられ、イエス様を信じることができ、信仰のスタートラインに立つことができたのです。

「信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。」(ローマ 10:14)

続く言葉に注目です。「また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。」

このみことばが私たちに完成するために、だれかが時間や労力を使って伝えてくださったのです。キリスト教の歴史の中で、それはずっとつながり続けています。世代を超えて福音は伝え続けられました。名もない人々によってです。しかし彼らの「伝える」という行為の連続無くして、今の私たちはいないのです。福音を伝えるために迫害され、殺された人も多くいます。彼らの命懸けの宣教によって、私たちは今、クリスチャンとなってここにいるのです。そのことを思うと、私たちにも一人のクリスチャンとして、教会として、神様からチャレンジが与えられています。私は、あるいは教会は、福音を次の世代に伝えるために何ができているのか。私は、私の周りの人々に福音を伝えているだろうか。



これは何も、すべてのクリスチャンが海外宣教師やフルタイムの牧師になるという意味ではありません。私たちの置かれているところで私の周りの人々に主を伝えるということなのです。

私マイクは、この二週間、短期宣教師として旭に遣わされましたが、普段は普通のサラリーマンです。特別な訓練を受けているわけでもなく、神学校に行ったわけでもありません。ただ私は、神様の言葉に忠実でありたいと願っているだけなのです。私のような普通の会社員がみことばを語るができるのなら、誰にでも宣教の働きはできるはずです。実は私は人一倍恥ずかしがり屋で、人前で発表することなど、学生時代には考えられませんでした。しかし、神様の言葉に従おうと一歩踏み出すなら、神様が必ず力を与えてくださいます。

先週はEEC(こども英語体験クラス)が三日間あって、参加した子供たちは全員大喜びで、楽しい時間をもちました。土曜日の夜は中高生クリスマスがありました。これらの集会に教会の何人かの方々は、ヘルプのためにその時間に来てくださったり、私たちの食事の用意をして届けてくださいました。この後の小学生クリスマスにも、奉仕して下さる方がいらっしゃいます。それらの方々は、ご本人は気づいていないかもしれませんが、ミッションの働きの同労者なのです。それぞれの賜物も性格も違いますから、皆が同じ働きができるわけではありません。

みことばを教える人、力仕事ができる人、音楽が得意な人がいるかもしれませんが。あるいはその働きはタイムキーパーかもしれないし、お掃除かもしれません。あるいは祈りや献金をもって支えるということかもしれません。一人一人がなんだかの働きに加わることができるはずですし、それらの働きはなくてはならないものなのです。

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

この大きな働きの一部を担うことなのです。私はかつては、このみことばが牧師や宣教師として召された人への言葉だと思っていました。しかし、私を含むすべてのクリスチャンに向けての、イエス様の最後の言葉、命令であると知った時、私の心は高鳴り、私を用いてくださいと主の前に出る者へと変えられました。

あなたにしかできない働きがあるはずですが。事の大小ではありません。私たちが主の最後の命令に応答するかどうかなのです。このクリスマスシーズン、私たちは、イエス様が最初にこの世に来てくださったお誕生をお祝いすると共に、イエス様の地上での最後の命令に心を留めることを忘れてはなりません。